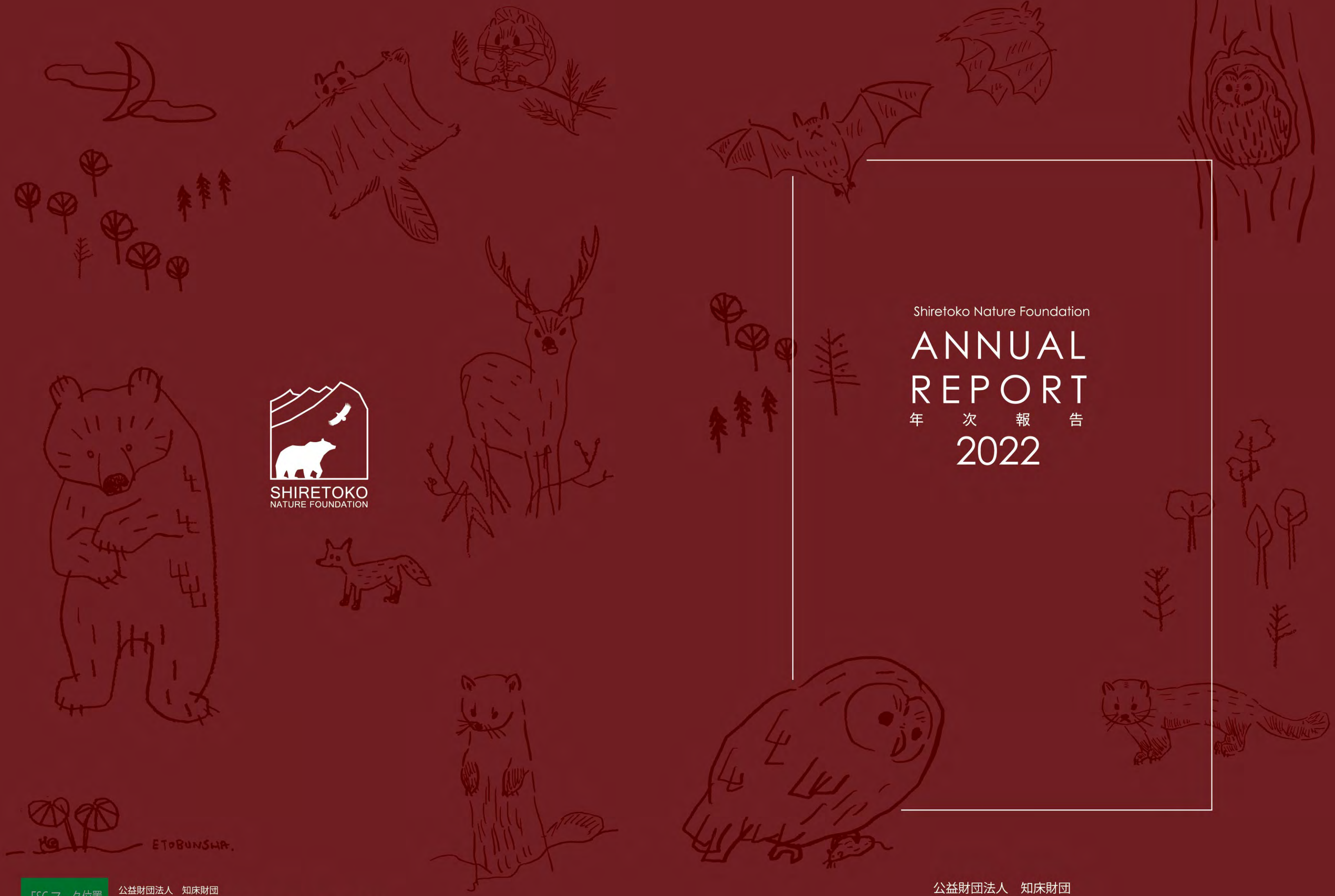


SHIRETOKO
NATURE FOUNDATION

Shiretoko Nature Foundation

ANNUAL REPORT
年　次　報　告
2022

公益財団法人　知床財団

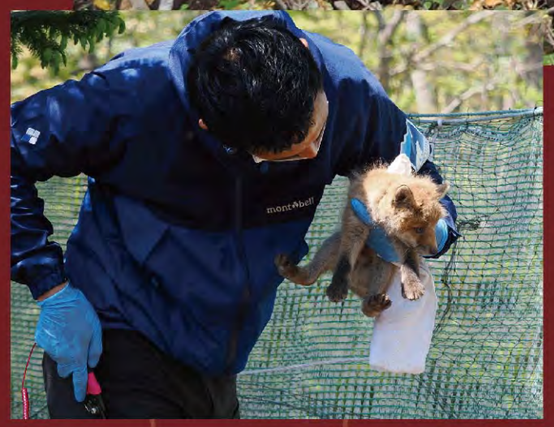
FSCマーク位置

知床財団のMission

私たち知床財団は知床半島をホームグラウンドとし、
世界遺産知床の自然を守り、よりよい形で次世代に引き継いでいきます。
野生動物やその他の自然環境の保全・管理に携わる組織として常に先駆者であり続け、
人間が自然と親しみ調和していける社会の発展に寄与します。

contents

はじめに 03
知床財団の12ヶ月 04
「知る」活動 06
「守る」活動 10
「伝える」活動 14
事業収支 18
いただいたご支援 19
賛助会員 20



はじめに

2022年度の知床は観光船事故と向き合いながらの1年でしたが、知床財団にとっても自然への畏敬の念と経験や人の繋がりを疎かにしてはいけないと感じる年でした。

そんな重苦しい年でしたが、例年にも増して私たちの活動は多岐にわたり、これまで以上に専門性を求められる機会が多くありました。

人や車を恐れないヒグマと接近する人間、一部地域で再増加が確認されたエゾシカ、知床の魅力を体験し持続するための保全と管理、観光客の数から質への転換、さらに知床財団スタッフのスキルアップと組織体制の充実など、知床での課題は尽きません。

一方で、斜里町と姉妹町である竹富町が設立した西表財団との交流が始まりました。世界遺産地域で活動する団体との繋がりは、「知り、守り、伝える」という私たちの活動の原点を見つめ直し、新たな知見を広めるチャンスです。

2022年度も多くの個人・企業の皆さまからご支援をいただきました。これらは私たちにとって大きな励みであり、大きな支えになっています。この報告をとおして地域や関係する皆さまに私たちの活動をお伝えすることができれば幸いです。

理事長　村田良介

知床財団 10年プロジェクト
10年プロジェクトは、知床財団が10年後にめざす姿を明らかにした私たちの羅針盤です。「国立公園・世界自然遺産地域の保護と利用の調和の実現」、「野生動物と折り合いとつけていく地域社会の実現」、「しれとこ100平方メートル運動の推進」及び「自主・自立の旗を立てる」の4つの大きな柱から成っています。

知床財団の12ヶ月 ～2022年度の活動・出来事から～

2022

4月

知る　イワウベツ川サケマス稚魚降下数調査（4-6月）　ルサ・相泊でのエゾシカのライトカウント調査
鳥インフルの流行（2-4月、10-11月）とその対応（p13）
守る　改正公園法の現場運用開始（p12）
伝える　旭山動物園「新ヒグマ舎」OPEN！
「知床財団スタッフトーク！」を毎日実施！（4-10月）
知床財団公式HPリニューアル　知床五湖FH業務開始
あかしのぶこ新作絵本原画展（4-9月）

5月

守る　クマ活（北こぶし）でウトロ市街地の草刈りに協力（5-6月）
知床岬でのシカの個体数調整（5-7月）
100㎡運動地アカエゾマツ密度調整発生材のウッドチップ加工（p10）
伝える　会報誌SEEDS春号発行
その他　第1回理事会

6月

守る　羅臼町内会でヒグマ対策の草刈りを実施
オジロワシ営巣木調査開始　フレペの滝遊歩道の迂回路設定
その他　定時評議員会・第２回理事会（書面）

7月

知る　ルサ園地の植生調査を開始（p07）　知床五湖の植生調査開始（p06）
西表財団の研修受け入れ（p08）　ホロベツ園地植生フェノロジー調査
守る　羅臼飼い犬加害ヒグマ捕獲
伝える　会報誌SEEDS夏号発行　羅臼「夏のビジカフェ湯ノ沢テラス」開催
賛助会員向けオンライン配信サービス「感性の森」提供開始

8月

知る　半島先端部の利用状況調査　ミズナラ豊凶調査
守る　羅臼町内で住宅電気柵モニターの運用開始

9月

知る　環境省・羅臼岳気象観測器設置　100㎡運動地シカ採食圧モニタリング調査開始
守る　盤ノ川魚道修繕（p09）
伝える　HELLY HANSEN知床店コラボイベント「Shiretoko Salmon Study Tour」を実施
ヒグマ対策ＤＡＹキャンプ等ルサFHイベント　植物観察会「僕と私とルサの森たんけん隊」開催
その他　知床峠付近で車両に手をかけるヒグマが頻繁に出没（p12）

10月

知る　イワウベツ川オショロコマ生息状況調査　幌別・岩尾別ライトカウント調査
守る　しれとこ森の集い
伝える　会報誌SEEDS秋号発行　YAMAP「DOMO支援プロジェクト」講演会開催
Shiretoko Sustainable Week2022を開催（p16）
特別展示「サスティナブルメッセージ展」開催（10-11月）
ミニギャラリー展「北のアルプ美術館30周年記念移動展」開催（10-11月）
その他　第3回理事会

11月

知る　沖縄県竹富町出張（p08）
守る　森づくりワークキャンプ
伝える　ホロベツ園地再整備プロジェクト本格始動（p14）
羅臼ビジターセンターイベント「アートを楽しむビジカフェ」開催

12月

守る　環境省・林野庁シカ捕獲事業を開始
伝える　羅臼町で町民向け「クマ端会議」を開催
その他　第4回理事会　知床財団スタッフ研修集中実施

2023

1月

知る　真鯉エゾシカ日中カウント調査（1-3月）
伝える　屋久島遺産30周年記念シンポジウム／世界自然遺産5地域会議に出席

2月

知る　自然公園研究会参加
守る　エゾシカの日没時銃猟を実施（2-3月）
伝える　HELLY HANSEN知床店コラボイベント「Shiretoko Drift Icewalking」を実施
会報誌SEEDS冬号発行　企画展示「スタッフの手しごと展」開催（2-5月）（p16）
その他　スノーモービル安全管理研修

3月

伝える　「斜里っ子自然教室」を開催　100㎡運動ハウス展示リニューアル
斜里町の姉妹町の竹富町を舞台にした映画上映イベントを開催（p08）
その他　第5回理事会

※1 年を通じて学校授業対応、道内外の各種団体からの依頼により研修・実習の受け入れ、出張講演等を実施

「しれとこヒグマ絵巻」作成中の様子

展示されたヒグマの冬眠穴模型

旭山動物園との取り組み

人気スポットでヒグマを学ぼう！

2022年4月、旭川市旭山動物園に新しくオープンした『えぞひぐま館』に、知床財団と絵本作家あかしのぶこさんが協働制作した展示物を設置しました。メインの展示物は「しれとこヒグマ絵巻」。知床で暮らすヒグマや人間の姿、社会の中のあつれきや、共存のための取り組みなどが描かれた絵巻です。その他にもヒグマの生態が描かれたパネルや、実物大の冬眠穴の模型など、すべてスタッフの手作りで制作しました。またオープンにあわせて知床自然センターでギャラリー展を開催し、記念シンポジウム「ヒグマとヒトの未来を考える」では講演も行いました。この展示を通して、多くの方にヒグマとの未来について一緒に考えてもらえれば幸いです。

もっと、魅力ある展示に

しれとこ100平方メートル運動ハウスの展示リニューアル！

「しれとこ100平方メートル運動ハウス」は、寄付者のお名前の掲示と、運動の普及を目的とした展示施設です。この運動の45周年事業※として、知床財団は施設の展示を生まれ変わらせるプロジェクトに携わりました。展示制作にあたっては、「既に運動に参加している人」と「これから運動に参加してほしい人」が森づくりの取り組みについて知り、共感してもらうことを通じて、支援の輪の拡大を目指しました。リニューアルした展示空間には、動物画家田中豊美氏による知床の森をテーマとした絵画や、スタッフが手づくりした樹種標本などを飾りつけ、運動の理念を美術館のように楽しみながら知っていただける場となりました。

寄付者名の掲示をモニュメント型にリニューアル

絵画や樹木標本を配置して楽しめる展示に

※斜里町「しれとこ100平方メートル運動ハウス展示リニューアル業務」、
「しれとこ100平方メートル運動参加者名札制作業務」

1 植生の変化を記録する 10年project

知床五湖の植生調査

知床五湖

植生調査の様子

ネムロコウホネ

遊歩道沿いに173種を確認

2021年から2022年の夏、知床五湖にて草本植物の開花状況を確実に記録・蓄積し現状を把握するための植生調査を実施しました。調査は、知床五湖開園期間中の6月から9月までの4か月間、高架木道含む遊歩道上を踏査し、歩道ルート上から目視可能な範囲において確認した草本植物を記録しました。

この調査を通して、48科124属173種の植物リストを作成しました。知床五湖の植生は、水辺から森林、そして草原性の植物まで、季節を通じて実に多様性に富んでいることがわかりました。これは短期間の調査にも関わらず、173種の開花を確認できたことからもうかがえることです。開花を確認した全173種のうち、帰化植物は29種でした。これは確認種全体の16%を占めています。多くの観光客が訪れる遊歩道であり、帰化植物の存在はある程度の予想はしていましたが、残念ながら予想を上回る結果となりました。

一方で、環境省レッドリスト2020年における絶滅危惧Ⅱ類（VU）のネムロコウホネ、オクエゾサイシン、コキツネノボタン、シコタンハコベの4種を確認しました。

知床五湖ならではの希少種を確認できたことは大きな成果ですが、喜んでばかりもいられません。例えば、ネムロコウホネは、同じ水辺の生息環境を好む帰化植物のスイレンの影響を受ける可能性を否定できないため、引き続き注視していく必要があります。

また、知床五湖には多くのエゾシカが生息しており、食害による植生への影響が懸念されているため、今後も草本植物含めた開花状況を把握していくことが重要と考えています。

2 植生の記録を残す 10年project

ルサ園地の植生調査

標本のための植物採取

ルサ園地の 2022 年現在の様子

作成した植物標本

園地整備前の植生を調べる

世界自然遺産知床国立公園ルサフィールドハウスの裏手に広がる敷地は、ルサ園地として2023年から遊歩道などの整備が行われる予定です。この整備の工事が入る前にルサ園地の植生を把握することを目的として、環境省・羅臼町と協力してルサ園地の植生調査を実施しました。

2022年7月から10月にかけて8回の調査を行い、シダ植物5科5種、種子植物36科137種、計41科142種を確認しました。このうち希少種はネムロスゲ；環境省・準絶滅危惧（NT）、ノダイオウ；環境省・絶滅危惧Ⅱ類（VU）、イワヨモギ；環境省・絶滅危惧Ⅱ類（VU）の3種、帰化種は43種でした。

2022年は早春5〜6月の調査を実施できなかったため、来年度この時期の調査を実施することで、1年間のルサ園地の植生を記録することができます。現時点での植生の記録は、今後園地整備が進み、利用者数が増加することによって植生がどう変化していくのか等を知るための基礎資料となります。

3 日本の両端の世界自然遺産地域を支える地域団体の交流と協力体制の構築

西表財団交流事業

西表島でのフィールド視察

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は、2021年7月に世界遺産に登録されました。亜熱帯に位置し生物多様性に富んだ日本で5例目となる世界自然遺産の誕生です。西表島は、イリオモテヤマネコに代表される固有種やマングローブの森など希少性の高い自然環境を有する一方、観光客数の増加や観光地の混雑が課題としてクローズアップされています。

こうした課題に取組む担い手として「一般財団法人 西表財団」が2021年に設立されました。地域が主体となり、専門的な人材が現場で活動するコンセプトは、私たち知床財団と志を同じくするものです。また、西表島を含む竹富町は、斜里町と姉妹町であり、両町は50年に渡り行政・民間レベルでの交流を重ねてきた歴史があります。

こうした縁もあり、知床財団と西表財団の交流事業がスタートしました。7月には、西表財団のスタッフ2名が知床に来訪し、知床五湖の制度運用やガイドツアーなどを体験しました。また、11月には知床財団から3名が西表島を訪問しました。独自のガイド免許制度の運用やエコツーリズム推進法による観光管理のしくみなど、進行形の取り組みを視察したほか、島の住民を中心とした理事の皆さんとも交流し、大きな刺激を受けました。

日本の両端で活動するふたつの財団が相互に学びと研さんを重ねることで、地域を超えたアイディアや行動のきっかけも生まれそうです。

4 姉妹町竹富町の人と文化を等身大で知り、感じる

映画「生生流転」から見えた知床

「生生流転」上映イベントの様子

2023年3月11日・12日の2日間、西表島のドキュメンタリー映画「生生流転」の特別上映を、知床自然センター内にあるMEGAスクリーンKINETOKOで行いました。斜里町と竹富町が2022年に姉妹町盟約50周年を迎えたことや、知床と西表島は世界自然遺産の地としての共通点があることから、知床で西表島のドキュメンタリー映画を上映することとなりました。

上映初日には、中程監督と松島プロデューサーによるトークイベントやブックレットへのサイン会を実施し、知床と西表島の繋がりをより実感できるイベントになりました。

また、会場では斜里町立知床博物館からお借りした西表島の資料を展示したほか、売り上げの一部が西表島の環境保全活動に寄付されるチャリティーグッズの販売も行いました。

5 命あふれる川を復元するために

魚道の修繕完了、モニタリング調査を開始

増水に耐えられる魚道に修繕

魚類のモニタリング調査も開始

2021年11月の大雨によって半壊した「盤ノ川簡易魚道」は、本体の基礎を石組み構造で強化し、増水時に岩の流れ込みを防ぐフェンスを新設するなどの修繕を行いました。2027年には、イワウベツ川本流にある治山ダムのスリット化による改良工事が完了する予定で、サケ類の遡上を妨げていた主たる障害が解消され、盤ノ川簡易魚道まで魚が遡上できる状況となる見通しです。それまでに、修繕した魚道に緩やかで深い淀みを設けるなど、小型の魚も上ることができる流路になるよう微修正を施していきます。

また、知床博物館と東京農業大学との共同で、簡易魚道の効果検証や魚類の生息状況の把握を目的とした魚類モニタリング調査を始めました。11月の調査の結果、未改良の治山ダムより上流側ではオショロコマの生息密度が著しく低く、生物相も含めた河川生態系の復元にはまだまだ時間がかかることが予見されました。この調査は、治山ダムの改良後も長期的に行う予定で、河川環境の改善を見極めるための基礎データとして活かしていきます。

6 世界の植林活動が抱える生物多様性の課題を解決するために

SOLVE for SDGs 知床プロジェクト

https://100m2.shiretoko.or.jp/jst/

ドローンを使った森林測量

SOLVE for SDGs知床プロジェクトは、知床で行われてきた森林再生の取り組みをベースに、大学や企業などと連携して研究を進めながら、豊かな森林生態系を復元・保全するための課題解決を目指すプロジェクトです。世界各地で行われている単純な植林活動に代わる、生物多様性の保全を重視した「知床モデル」の森林保全のかたちを確立させ、他地域への普及を目指します。

このプロジェクトでは、森林再生専門委員の森章東京大学教授を中心として、これまでにドローンを用いた超精密な森林測量、100年後の森の姿をシミュレーションするモデル解析、森林保全活動へ寄付する動機を探るアンケート調査などを行ってきました。今後は「知床モデル」の普及を進めるとともに、森林保全に取り組んでいる団体を集めたアライアンスの創出や、それらの団体と支援先を探している企業とをマッチングする仕組みづくりを提案していく予定です。このプロジェクトは、科学技術振興機構が運営する「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」の研究助成により実施しています。

1 企業とボランティアの力で進む森づくり 10年project

アカエゾマツ造林地の樹種多様化、着実に進行中

広葉樹苗の植樹地にて

ウッドチップを敷き詰める作業

ヤマップ代表を招いてのトークイベント

多様性に富む豊かな森を復元

しれとこ100平方メートル運動の森林再生業務では、植樹後30～40年経過したアカエゾマツ造林地を針広混交林にするため、密度調整後に広葉樹の苗木を植える作業を進めています。植樹に用いる広葉樹は、エゾシカ対策の樹皮保護ネットを巻く必要があるため、樹齢15年以上の大きい苗木を使います。植樹作業は春と秋に行い、全国各地から集うボランティアのべ78人の協力を得て、2022年度は合計61本の広葉樹を植えることができました。

樹種多様化のための密度調整（間引き）作業によって大量に発生したアカエゾマツの間伐材については、運動地内で有効活用するため、登山アプリを運営する株式会社ヤマップのご支援によりチップ化し、運動地内の公開コースに敷くなど積極的に活用しています。チップを敷く作業は7月に行い、2日間でボランティアのべ27人が集い、コースの一部約500メートルの区間に敷設しました。

開拓跡地の森林化を進めている運動地では、エゾシカの採食圧から植生を守るため、これまでに防鹿柵を大小含めて20基建設しました。しかし防鹿柵は建設後20年以上が経過して老朽化が進んでいます。こうした背景から、近い将来大規模な補修を要する防鹿柵2基のうち1基を、この度のヤマップのご寄付を活用して補修することができました。今回補修した防鹿柵は、面積が約5haに及ぶ最大級のものです。柵内はエゾシカの採食がないため、植樹の成果や植生の遷移により徐々に森林化が進行しています。今回の補修により長期間植生保護が可能になりました。今後も更なる森林化が期待できます。

その他にも樹種多様化を進める上で欠かせない苗木を生産する拠点（苗畑）まわりの柵の補修も行いました。

2 地域とともに進めるヒグマ対策 10年project

知床のひぐま https://brownbear.shiretoko.or.jp/

羅臼町のヒグマ対策

人とヒグマ、互いの暮らしを守るために

人の生活圏とヒグマの生息域が隣接する羅臼町では、様々なヒグマ対策が行われています。その一つがヒグマの侵入を防ぐ電気柵です。ダイキン工業株式会社からの支援により、羅臼町の中心部と昆布番屋が連なる北部に電気柵が設置されています。2022年度もヒグマの活動が本格化する4月から電気柵を立ち上げ、その後も漏電の原因となる雑草の刈払いなどの維持管理作業を定期的に実施しました。しかし、羅臼町は住宅地や漁業施設が海岸沿いに30km以上も続いているため、人の生活圏全てを電気柵で守ることはできません。そのため、町内会による草刈りや、地元学校でのヒグマ学習などを通じて、ヒグマとの関わり方を地域課題として認識していただくための取り組みも強化しています。町内会による草刈りは、地域が一体となって取り組むことのできる身近なヒグマ対策です。自宅の裏や歩道沿いのヤブを刈り取ることで、人の生活圏へのヒグマの侵入や潜伏を抑止することができます。3年目となる2022年度の草刈りには、計10町内会で168名の皆さんにご参加いただきました。

知床のヒグマ対策は、「第2期知床半島ヒグマ管理計画」に基づき、ゾーニングや行動段階によるヒグマ管理が行われています。2022年度、羅臼町内では、この管理計画に則り、住宅地等に出没したヒグマ18頭が有害捕獲されました。一方、有害捕獲数は多かったものの、町内でのヒグマ目撃件数は195件（前年度比89%）、目撃に伴う対策活動は213件（前年度比61%）と、それぞれ例年より少なく、ヒグマが干し魚などを求めて住宅や加工場の倉庫に侵入するような事例も発生しませんでした。ヒグマ対策の答えはひとつではありません。人とヒグマ、互いの暮らしを守るためには、その時々の状況に応じ、必要な策を的確に講じ続けることが重要です。羅臼町のヒグマ対策は地域の協力を得ながら少しずつ前に進んでいます。

海岸町にて捕獲された飼い犬加害個体（通称RT）

クマ端会議（羅臼）

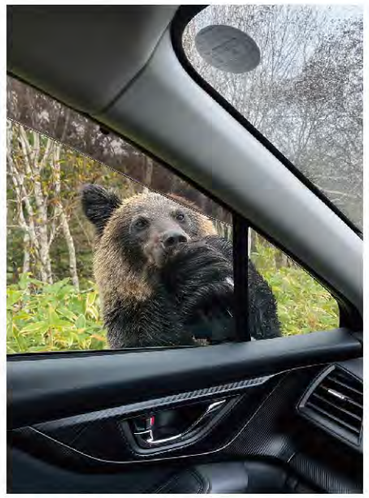
羅臼高校インターン（電柵草刈り）

3 知床を訪れる・知床に暮らす人々の安全を確保する

知床横断道路における ヒグマの問題行動とその対応

国道334号知床横断道路は斜里町と羅臼町の往来を可能とする唯一の道路であり、観光や生活基盤を支える重要な道路です。また、自動車だけでなく、自転車や徒歩で通行する方もいます。そのような場所で、車両に過剰に接近するヒグマの出没が多発しました。このヒグマは車両につかまり立ちする、サイドミラーを破損させる等の問題行動を繰り返していました。このヒグマがなぜこのような問題行動を繰り返すのか、原因は分かっていません。

このヒグマの行動は、第2期知床半島ヒグマ管理計画の行動段階2に該当し、人に危害を及ぼす可能性が極めて高いと判断され、地元関係行政機関、道路管理者および警察と協議し、当該ヒグマを有害捕獲することとなりました。知床横断道路の冬季通行止め期間中である11月にヒグマ対策員が自動車で道路を移動しながら捜索しましたが、自動車に接近するヒグマの姿は確認できず、有害捕獲には至りませんでした。このヒグマは今後も同様の行動を繰り返す恐れがあるため、引き続き出没情報の収集を行い、事故の発生を防ぐ対策を継続しました。



車両のドアミラーに手を掛けるヒグマ（一般提供）

4 ヒグマと人との距離を適切に保つ

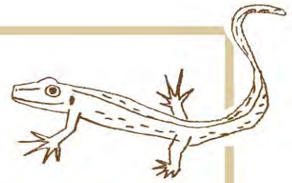
自然公園法改正後の ヒグマ対策

ヒグマに接近する公園利用者

国立公園内で発生する交通渋滞

知床国立公園では、従来から野生のヒグマに接近する公園利用者が後を絶たず、人身事故の発生が危惧されていました。また、ヒグマを近くで見ようとする利用者による交通渋滞など、公園利用に支障をきたす事例が多発していました。

こうした課題を踏まえ、2022年4月1日に改正自然公園法が施行され、野生動物への餌付けや、著しい接近、つきまとい行為が規制対象とされました。このため、関係機関と連携して国立公園内のパトロールを強化し、利用者の安全確保に取り組んでいます。



5 カムイワッカ地区の利用適正化の取り組み 10年 PROJECT

温泉レンジャー始動！

現場でのミーティング

利用者に案内する温泉レンジャー

カムイワッカ湯の滝の利用状況

落石などの課題があるため、15年以上利用エリアが限定されてきたカムイワッカ湯の滝では、閉鎖中の上流部の利用を再開する試行事業が進展しています。カギになる安全管理の充実のため、知床財団スタッフの現場配置が始まりました。活動するスタッフの通称は「温泉レンジャー」です。カムイワッカ湯の滝を訪れる利用者への案内や安全管理のほか、利用状況や混雑状況に関する調査なども行いました。

6 感染症対策を通じて知床の生態系を保全する

高病原性鳥インフルエンザ 感染個体への対応

全国的な鶏卵の不足により一躍有名となった「鳥インフルエンザ」。知床においても2022年の春と秋に野鳥の間で高病原性である「H5N1」が大流行し、カラスを中心に多くの野鳥が命を落としました。感染したカラスは重篤化すると写真のように神経症状を示します。知床を代表する希少鳥類であるオオワシやオジロワシも例外ではなく、実際に感染により死亡した個体も複数確認されました。

知床財団では、感染拡大を何とか食い止めようと、鳥インフルエンザの感染が疑われる野鳥や死亡野鳥が見つかった際は、北海道または環境省と協力して回収し現地の消毒を行っています。人間が感染する可能性は低いですが、万が一感染した際は死亡リスクの高い感染症であるため、対応の際は万全の防護体制で臨んでいます。

神経症状を示すカラス

防護服を着て回収作業に臨むスタッフ

1 サステイナブルの気づきの場所へ 10年project

ホロベツ園地のリニューアルに向けて

ホロベツ園地の全景

ゾーニングによる園地の管理計画

フレペの滝展望台のリニューアルイメージ

ホロベツ園地の魅力向上を目指して

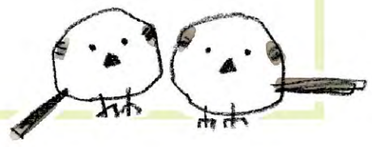
斜里町と知床財団が二人三脚で管理運営するホロベツ地区では、拠点施設である知床自然センターのリニューアル事業が2015年から続けられてきました。老朽化が進行する施設のみならず、運営体制やサービス提供などソフト面の刷新にも取り組んできました。2020年には大型映像の更新も完了し、拠点施設である自然センターのリニューアルは一段落しました。

これらに続く大きな目標は、自然センターの背後に広がるホロベツ園地※のリニューアルです。ホロベツ園地を代表する「フレペの滝遊歩道」は、年間約5万人が利用する人気の散策路ですが、コースは開設以来変わっておらず、案内板や展望台などの老朽化も進行しています。また、近年はヒグマによる緊急閉鎖も増加しており、安全確保と利用機会の確保の観点からも課題があります。

2022年度、私たちはホロベツ園地リニューアルのマスタープランとなる「ホロベツ園地再整備基本計画」の策定に斜里町と取組みました。計画では、①老朽化した施設の更新、②歩道の延長や新設、③宇登呂灯台の活用、④新たな展望地の設置などを提案し、多様なニーズの利用者を通年で受け入れ、体験のバリエーションを増やすことを目標としました。また、事前の情報提供やコースの管理をきめ細やかに行うことで安全性を向上させるなど運用計画についても提案しました。

特に、もっとも力を入れたのは、フレペの滝展望台（チカポイ展望台）の再整備計画です。150mを超える断崖から染み出し、海に流れ落ちるフレペの滝を眺める展望地は現在も散策路のハイライトであり、冬には流氷も一望できるすばらしい場所です。計画では、既存の東屋を撤去し、海側へ大きく張り出す２層構造の展望台を再整備することで、よりダイナミックで露出感のある体験が可能となる案を提案しました。

こうした魅力ある園地整備は、五湖地区への集中緩和や滞在型観光の実現、ホロベツ地区からのシャトルバス乗換えの促進などにも貢献すると考えています。知床自然センターとホロベツ園地、そして私たち知床財団は、斜里町が1983年に策定した「知床国立公園幌別地区基本構想」が基となり整備・設立されています。今回の計画は、この志を受け継ぎ、次の世代へと発展するものになればと考えています。



※「園地」とは、展望台や散策路、広場などを指し、自然そのものを楽しんだり観察したりする場のこと。

2 知床の持続可能性（サスティナビリティ）を発信する 10年project

「知床サスティナブルウィーク」開催

知床の持続可能性（サスティナビリティ）をホロベツから発信する秋のイベント「知床サスティナブルウイーク（9月30日～ 10月10日）を、今年も地元関係機関との実行委員会体制により開催しました。新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いていたことから、飲食店の出店や対面のワークショップも実施することができました。昨年度からオンライン配信を行っている「知床サスティナブルトーク」では、今回も様々な視点でトークセッションを行いました。知床と小笠原・奄美大島の世界自然遺産を繋ぎ、それぞれの地域の魅力や課題を語り合う試みや、北海道大学との共同研究の結果をもとにした、知床が抱えるヒグマとヒトの課題ついて考えていただけるようなものなど、知床から別の地域へとサスティナビリティの繋がりを広げることができました。2022年のテーマは「よく、よくよく考えてみると」。植物や海ごみ、流木を使ったワークショップでは身近な自然や漂着物を通して沢山の方に知床の様々なサステナビリティを感じていただける機会となりました。

出店がならぶ知床自然センター前

海洋ごみを使ってメッセージを書く参加型の企画展

3 世界各地から訪れる人々に知床の魅力を伝える 10年project

ビジターセンターでの取り組み

新しい展示の取り組み

最新の情報をわかりやすく

スタッフトークの様子

知床財団の重要な活動の一つに、世界各地からのビジターを迎え入れる施設の管理運営があります。知床財団が管理を担う拠点施設は、斜里町側では知床自然センターと知床五湖フィールドハウス、羅臼町側では知床羅臼ビジターセンターとルサフィールドハウスと半島全域に渡っています。2022年度は、新型コロナウイルス対策にかかる行動制限の緩和を踏まえ、ビジターに知床の自然をより楽しんでいただく様々な取り組みを実施しました。

知床自然センターでは、シーズンを通して来館者に向けたスタッフトークを行い、厳冬期の知床を楽しむクイズラリーなどのキャンペーンにも積極的に取り組みました。また、スタッフの特技を紹介する企画展「スタッフの手しごと展」では、手づくりの昆虫標本や植物標本をはじめ、プロにも劣らない手描きのイラストや写真、木工作品などを展示し、知床に暮らしているスタッフならではの視点や自然観を感じられる場を演出しました。

知床羅臼ビジターセンターでは、絵本作家あかしのぶこさん作の紙芝居を用いたミニレクチャーや、冬期のスノーシューレンタルを行い、ビジターセンター館内や周辺の自然散策を満喫してもらえるよう工夫を凝らしました。

今後も知床を訪れる人々に知床の魅力を伝え、より楽しんでもらえるような取り組みを続けていきます。

4 国立公園内のヒグマと人との軋轢を解消すると同時に、国立公園の魅力向上を目的とする 10年project

3年目のバスデイズ。さらなる魅力の創出を！

バスデイズチケット

ヒグマ対策スタッフによる
ガイドトークの案内

10月の知床国立公園のイベントの一つとして2020年から実施してきた「知床オータムバスデイズ」。2022年度はさらなる魅力の向上を図るため、新たなプログラムを加えて実施しました。

今回は、バスデイズ中に国立公園内を走る3路線のうちの一つに知床財団のヒグマ対策スタッフが乗り込み、ヒグマなど野生動物について解説するバスプログラムを実施しました。このバスの目的地は岩尾別温泉で、公園内の宿泊施設に泊る方や羅臼岳登山口に向かう方々が主に乗車する便です。2022年度は目的地への移動手段だけではなく、ガイドの解説を聞くためのアクティビティバスとして利用してもらうことを狙って運行しました。バスの中のガイドトークを聞くことを目的に乗車いただいたお客様もおり、今後の発展の可能性に期待が持てる取り組みとなりました。

また、一部の路線を除いて初めて有料のチケットを導入しました。せっかく購入いただくならば、思い出に残るチケットにしたい！という思いから、スタッフが知床国立公園のイメージでイラストを描きおろしてチケットを作成し、バスデイズのワクワク感を演出しました。

さらに、期間中のイベントのひとつとして、環境系エンターテイナーとして人気のあるWoWキツネザル氏をゲストとして招致し、サスティナブルウィーク中のトークイベントに出演いただいたほか、国立公園やその周辺を知床財団スタッフと一緒にまわり、野生動物、特にヒグマの生態や人との距離感をテーマにした動画を共同制作しました。この動画は、WoWキツネザル氏のYouTubeチャンネル内でも配信していただき、普及啓発素材としての拡散を図りました。

5 知床の文化を伝える

～続縄文時代からつづくルサの路～

東と西をつなぐ古道のリーフレットをデザイン！

知床の歴史を紹介するリーフレット

知床半島には多くの遺跡があることをご存知でしょうか。豊かな自然が魅力の知床には、多くの先人たちの軌跡が点在しています。その一つがルサ遺跡です。ルサという地名はアイヌ語でル・エ・シャニ「路が浜へ出ていくところ」という言葉が語源です。知床半島の中でも稜線の標高の低いルサは、古くは続縄文時代から半島東西をつなぐ道として利用されていました。

このルサの道とルサフィールドハウスの近くにあるトビニタイ文化期の住居跡について、多くの方に知っていただくためのリーフレットを羅臼町事業で製作しました。先人たちの暮らしに思いを馳せながらルサ地区の魅力を感じられるリーフレットとなっています。

事業収支

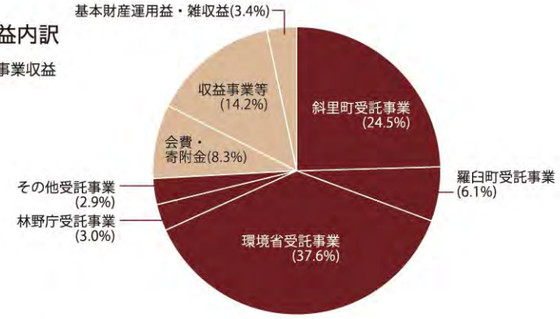
2022年度の経常収益額は、3億8,788万円でした。そのうち74%を事業収益が占め、その大半は行政機関からの受託事業による収入でした。
賛助会費や寄付金はもちろん、物品販売や講演・実習受入などの収益事業は、独自事業を実施するための貴重な財源になっています。

2022年度 決算データ

正味財産増減計算書
(自 2022年4月1日　至 2023年3月31日)　(千円)

科目		金額
基本財産運用益		1
事業収益	斜里町	95,042
	羅臼町	23,888
	環境省	145,737
	林野庁	11,729
	その他	11,176
会費・寄附金		32,224
収益事業等		55,017
雑収益		13,067
経常収益計		387,881
事業費		387,028
管理費		6,829
経常費用計		393,857
当期経常増減額		△5,976
当期経常外増減額		△484
当期一般正味財産増減額		△6,460
当期指定正味財産増減額		1,566
正味財産期末残高		153,425

経常収益内訳



貸借対照表 (2023年3月31日現在)
(千円)

科目	金額	科目	金額
流動資産 Ⓐ	173,877	流動負債 Ⓒ	137,823
固定資産 Ⓑ	168,446	固定負債 Ⓓ	51,075
基本財産	45,000	❶ 負債合計 (Ⓒ+Ⓓ)	188,898
特定資産	104,558	指定正味財産 Ⓔ	84,426
その他固定資産	18,888	一般正味財産 Ⓕ	68,999
		❷ 正味財産合計 (Ⓔ+Ⓕ)	153,425
合計	Ⓐ+Ⓑ 342,323	合計	❶+❷ 342,323

2022年度 主な受託事業一覧

■ 斜里町事業
- 知床自然センター他管理業務
- 知床五湖水道施設等管理業務
- ヒグマ管理対策業務
- 自然環境保護管理対策業務
- ホロベツ園地再整備基本計画策定業務
- しれとこ100平方メートル運動地森林再生推進業務
- 樹種多様化推進業務
- しれとこ100平方メートル運動ハウス展示リニューアル業務
- しれとこ100平方メートル運動参加者名札制作業務
- 盤ノ川簡易魚道整備業務

■ 羅臼町事業
- 知床羅臼ビジターセンター運営業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウス運営業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウスにおけるイベント運営業務
- ヒグマ管理対策業務
- 野生鳥獣及び自然環境保護管理業務

■ 環境省事業
- 知床羅臼ビジターセンター維持管理等業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウス管理運営業務
- 知床野生動物保護管理対策業務
- 知床世界自然遺産地域科学委員会等運営業務
- 知床国立公園（非積雪期）エゾシカ個体数調整実施業務
- 知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務
- 知床国立公園（積雪期）エゾシカ個体数調整実施業務
- 知床国立公園エゾシカ対策（日没時銃猟）評価検証等業務
- 知床世界自然遺産地域高山域における気象観測システム設置検討業務
- 知床世界自然遺産地域高山域における気象観測システム設置業務
- 知床国立公園知床五湖利用調整地区管理対策等業務
- 知床五湖登録引率者養成研修等業務
- 知床半島先端部地区利用状況調査業務
- 知床五湖フィールドハウス運営管理等業務
- 知床五湖指定認定機関

■ 林野庁事業
- 知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業（くくりわな等）
- 知床ルシャ川等におけるサケ類の稚魚降下数調査事業

■ その他
- 北海道・サケ科魚類モニタリング調査委託業務
- 北海道農林土木コンサルタント㈱・ルシャ川小規模治山委託業務（シロザケ産卵床数等モニタリング調査）
- パブリックコンサルタント㈱・羅臼川稚魚調査業務
- (国大)北海道大学・環境研究総合推進費研究共同実施事業（海洋環境）
- 知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会・カムイワッカ地区利用適正化対策現地管理等総合支援業務
- 知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会・カムイワッカ湯の滝試行事業現地管理運営補助業務
- 知床ガイド協議会・知床五湖当日受付カウンター運営業務

いただいたご支援

お寄せいただきました寄付金は、2,378万円でした。
ご支援いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

2022年度 寄附をいただいた主な法人（3万円以上）

(円・物品)

ダイキン工業株式会社	5,000,000	ワイエスインターナショナル株式会社	66,059
三井住友ファイナンス＆リース株式会社	1,725,800	株式会社ユートピア知床	51,827
斜里町内企業	1,000,000	羅臼アポロ石油株式会社	50,000
医療法人百玄会 理事長 貴島 祐	1,000,000	手作りクレヨン工房 Tuna-kai	38,800
特定非営利活動法人 旭山動物園くらぶ	100,000	株式会社藤田工業	30,000
東京シティ日本橋ロータリークラブ	80,000	日本グッドイヤー株式会社　公用車のタイヤ無償提供	

(敬称略)

企業とともに、知床のために

① コラボレーション商品の開発

賛助会員の企業を中心に、私たちの活動に賛同してくださる皆様とコラボレーション商品の開発に取り組んでいます。オリジナル商品の売上は独自事業のための貴重な財源となります。

北海道置戸町にある「木工房kitto」と知床財団がコラボレーションして生まれた手作りの木皿セット。

知床の険しいフィールドや厳冬期で活用する公用車用タイヤ（日本グッドイヤー株式会社様より）

② 物品のご提供

昨年に続き、公用車のタイヤをはじめ、河川調査で使用する機材など、知床財団の活動を支える物品をご提供いただきました。

③ ボランティア活動への参加

森づくりをはじめとするボランティア活動に参加いただきました。

冬の森づくりボランティアの様子（ダイキン工業株式会社様）

賛助会員

知床財団の活動は、賛助会員をはじめとする多くのサポーターの皆様に支えられています。2022年度は新たに129名、18団体の皆様にご入会いただきました。皆様のあたたかいご支援 に厚く御礼申し上げます。

2022年度 賛助会員の状況

個人年会員	個人終身会員	法人年会員	法人特別会員	総会員数
809名	1,095名	84団体	35団体	2,023件

2022年度 法人年会員

※赤字は斜里町・羅臼町の法人会員

法人名	所在地
株式会社ユートピア知床	斜里町
株式会社須田製版（釧路支店）	釧路市
ゴジラ岩観光	斜里町
知床オプショナルツアーズSOT!	斜里町
有限会社みさき水産	羅臼町
有限会社赤岩水産	羅臼町
羅臼漁業協同組合	羅臼町
ウトロ漁業協同組合	斜里町
オコツク漁業生産組合	斜里町
株式会社辻中商店	羅臼町
有限会社木切別漁業	羅臼町
峯浜水産有限会社	羅臼町
有限会社知床ネイチャークルーズ	羅臼町
株式会社秀岳荘	札幌市
小川建設株式会社	羅臼町
株式会社大石アンドアソシエイツ	東京都
ピックス株式会社	斜里町
田島公認会計士事務所	東京都
サージミヤワキ株式会社	当別町
株式会社小柳中央堂	北見市
小野建設工業株式会社	羅臼町
株式会社ケミクル	羅臼町
知床ガイド協議会	斜里町
CSEG株式会社	東京都
ファームエイジ株式会社	当別町
羅臼石油株式会社	羅臼町
医療法人社団鶴翔会つるい整形外科	東京都
土橋工業株式会社	斜里町
安田商事株式会社	斜里町
株式会社ふれあい	石狩市
有限会社川上水産	羅臼町
斜里バス株式会社	斜里町
ワイエスインターナショナル株式会社	東京都
株式会社キムラシステム	札幌市
株式会社アヤメ緑化工業	北見市
アリス動物病院	神奈川県
株式会社バリュープロモーション	東京都
有限会社尾崎プロパティ	埼玉県
斜里建設工業株式会社	斜里町
斜里第一漁業協同組合	斜里町
日本パトロール株式会社	愛知県
有限会社雄美	千葉県

法人名	所在地
有限会社片山電気商会	斜里町
しれとこくらぶ	斜里町
山洋建設株式会社	中標津町
山本電子工業株式会社	網走市
知床サライ	羅臼町
株式会社丸あ野尻正武商店	斜里町
株式会社新宣組	札幌市
ワンドリームピクチャーズ有限会社	旭川市
一般社団法人斜里青年会議所	斜里町
office albireo	東京都
株式会社クリオ	東京都
斜里通運株式会社	斜里町
BlueM株式会社	網走市
民宿いしやま	斜里町
株式会社セキグチ	埼玉県
株式会社藤田工業	神奈川県
有限会社阿保水産	羅臼町
高橋水産有限会社	羅臼町
Hair Salon Yockey	東京都
羅臼アポロ石油株式会社	羅臼町
東京シティ日本橋ロータリークラブ	東京都
株式会社開発工業	斜里町
株式会社JVCケンウッド・デザイン	東京都
有限会社横山測量設計事務所	斜里町
株式会社CreativeFirst	千葉県
株式会社CNS	北見市
どうぶつの内科・皮膚科クリニック	帯広市
株式会社Bluedirection	神奈川県
Rujipart Photography	倶知安町
株式会社ナゴウェブ	愛知県
株式会社元木金物店	斜里町
ホクレン農業協同組合連合会（中斜里製糖工場）	斜里町
STORY LLC.	東京都
株式会社RUNWAYS	東京都
結婚相談チャットサポートセンター	神奈川県
株式会社ライフクリエーション	中標津町
エモーショナルリンク合同会社	東京都
株式会社アルビノ	東京都
株式会社AlbaLink	東京都
株式会社アドアニモ	静岡県
namiuchigiwa	神奈川県
ブルースタイル沖縄株式会社	沖縄県

2022年度 法人特別年会員

MOL 商船三井フェリー
City シティ環境株式会社
Sumitomo Pharma
有限会社アウトバック
mont·bell
rebake
IAO PLANNING & DESIGN
Yotsuba Trade 株式会社 四ツ葉トレイド
SATOH SEIZAI
光和メディカルクリニック ヘルスケアセンター
NATURAL
stanfoot
知床第一ホテル
SKE Smart Key to Enjoy your life
Elreno Limited
カメラのキタムラ
スタジオマリオ
株式会社 中田建機
GOODYEAR
99 九十九商会
富士化学工業
株式会社 一千乃
THE NORTH FACE
知床酒場 ピリカデリック PASTA / PIZZA / BEER CAFE / BAR
Mother Nature's Son
KITAKOBUSHI RESORT
wood link FURNITURE & GALLERY
Tenchijin
JAしれとこ斜里
JIPCON
KIJIMA CHILDREN'S CLINIC
MILESTONE CONSULTING GROUP
ST SEIKO
健康は、進化する。 BATHCLIN バスクリン
Pacific Consultants Producing The Future™
地球の健康を見つめる 環境大善

会員の募集

私たちの活動を応援してくださるサポーターを募集しています。

皆様から募った会費や寄附金は、
知床を未来につなげるために役立てられています。

個人

■1年間応援	個人会員	5,000円/年
■生涯応援	個人終身会員	100,000円/生涯

法人

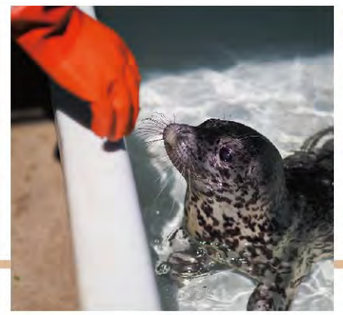
■法人特別年会員	100,000円/年
■法人年会員	20,000円/年

入会用サイト

入会、寄附の方法については**知床財団の賛助会員のサイト**をご覧ください。寄附も随時承っております。

知床財団への会費、寄附は所得税、住民税、及び相続税における優遇措置を受ける対象となり、控除が受けられます。詳しくは知床財団ホームページ、または税務署にお問い合わせください。

知り



守り

伝える

組織概要

名称	公益財団法人　知床財団
設立	昭和63年（1988年）9月23日
設立者	斜里町・羅臼町
基本財産	4,500万円
所在地	〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別531番地
目的	この法人は、知床半島及びその周辺地域の自然環境に関する調査・研究、自然保護の普及啓発などの事業を行い、もって広く自然環境の保全と利用の適正化に寄与することを目的とする。
事業	(1)野生動植物の調査・研究 (2)自然保護の普及啓発 (3)自然保護に関する諸団体との連携 (4)自然環境の保全管理及び公園施設などの管理運営受託業務 (5)その他この法人の目的を達成するために必要な事業
職員	47名（2022年4月1日時点）

SHIRETOKO
NATURE FOUNDATION

Annual Report 年次報告 2022
発　行：公益財団法人 知床財団
https://www.shiretoko.or.jp
発行日：2023 年 7 月
Illustration：ETOBUNSHA